

2010.8.18訪問



青年部員の仕事現場に 行ってきましょ 第十三回 邦板さん

今回はお忙しい中無理を言ってお時間をいただいたこともあり、事業所ではなく施工現場に伺ったの取材となりました。しかし当日は最高気温が35℃を超える猛暑日。時刻も暑さが残る午後4時で、取材に伺った3人を含め、4人とも大量の汗を流しながらの、文字通り熱い取材となりました。(文・廣江 一昭)



いい仕事には 自信があります

邦板さんは、平成9年に板金職人だったお父さまが独立して当地で開業されました。安江君は今から10年ほど前に脱サラして邦板に入られ、お父様のもと一から板金の技術を学ばれたそうです。

「オレのシフト」について教えてください

うれしいと思いつつは何ですか？

雨どいや屋根・外壁などの仕事をうけて、それらが完成した時、お客様が喜ばれた時はやはりうれしいですね。

シフトについて

高い所が怖い。決して高所恐怖症というわけではありません。(笑)

仕事上どうしても屋根に上ることが多いのですが、大きな工場の屋根だと結構な高さになるので落ちたらヤバイですもんね。

工場の屋根からではなかったですけど、実際に落ちたことがありますから(笑)

普段気を付けていることは？

雨漏りは、建築物の耐久性に大きく影響しますので、きっちりとした仕事をするのはもちろんですが、周囲からの景観、見映えが美しくできているかを特に気をつけています。

仕事を通じて学んだことは？

人生これ我慢。

下請での仕事も結構あります。元請さんのおっしゃることは絶対ですから、急な仕事など少々無理な依頼があったとしてもできるだけ受けるようにしています。

昔の自分からするとずいぶん丸くなったなあと思いますねえ。でもそのおかげか、いい仕事をした時など次の仕事時に元請けさんを通して指名を受けたり、中には仕事の代金と別に「君へのお小遣いだ」とお金を頂いたこともありますから。

取材を終えて

職人さんという事もあり、普段の付き合いの中でも頑固なところは感じていましたが、お話をうかがって仕事ではいっさい手は抜かないという板金職人としてのこだわりや魂を熱く感じました。サラリーマンから畑違いの業界へ入られ苦労した面は沢山あったそうですが、腕のいい職人のお父様のもとで教え込まれたこともあり、毎日忙しそうに仕事に励まれています。

ただ、職人さんでも昔のように腕が良ければいいというわけでもなく、元請けさんとのコミュニケーションを多く取ったり、お客への売り込みや笑顔の対応など営業マンの要素も今の時代必要だということが分かりました。